「今後の県立高校に関する意見交換会（第２回）」記録要旨【胆江ブロック】

平成 27 年 10 月 30 日（金）
奥州市水沢地区センター 視聴覚室

【奥州市　参加者】

・ 資料№.１に「近隣の高校が存在し、当該高校以外へ通学が容易な地域」とあるが、この表現であるとどこの地域か分からない。前沢区には高校が１つ、水沢区には３つ、胆沢区には１つある中で、どのような基準になるのか見えない。全て近隣という言葉にまとめられると辛いところがある。

【県教委】

・ 生徒の多様な進路に対応する科目選択ができる体制等を考え、学校規模を確保しつつ、教育の質を維持しながら、通学が極端に困難な地域での教育の機会の保障についても今回の再編計画では考えていかなければならない。

・ 通学が著しく困難な地域の設定については、中学生のアンケート結果では通学に１時間を許容するという回答が約７割、１時間 30 分が２割弱いたこと、小中学校の統合の国のガイドラインに 60 分という基準が設定されているので、高校の場合はそれより若干長めに考えなければならないこと、公共交通機関の状況等を踏まえて考えていきたい。

【奥州市　参加者】

・ 近隣という表現について、具体的なブロックやエリアで考えていくことで再編や学科、学級減についての方向性等を検討できるのではないか。

・ 県教委では県全体のことを考えているのは分かるが、ブロックごとに状況が異なるので、当ブロックではこの方向性があると、たたき台のような案を示して検討する形も良いと思う。全県を網羅する形での表現では曖昧になり、結局はそれぞれの地区で出された意見が反映されないことになりかねない。

・ 中学生のアンケートを実施したことは良いことだと思うが、就職や進学の先が見えないことから、中学生の段階では学校の選択そのものが、曖昧なままで高校に進学する状況がある。

・ 前沢高校は進学、就職の実績があり、小規模でありながら進学にも就職にも対応できることにも考慮が必要だと思う。

・ 学校の数を減らすのか、学級の数を減らすのか色々な形があると思うが、たたき台があると具体的な意見を聞くことができるのではないか。

・ 闇雲に学校を残せと言っているのではなく、小規模校でも生徒の資質を向上させている学校もあるので、計画が確定する前にこのブロックではこの方針で考えているというような案を示して意見交換会に臨むと、より具体的な意見が出されると思う。

【県教委】

・ 再編計画案は 12 月中に示す予定である。ルールが全県を網羅するために分かりにくいということがあるかもしれないが、地域事情を考えると一律のルールを示すことができないことがあり、ブロックの状況を考えた上で検討していく必要がある。

・ 胆江ブロックの状況として、今は具体的な案は示せないが、資料№.７にあるような推計の通り行けば、平成 32 年には４学級程度の学級減が必要となる。定員割れしている学校もあり、これまで

（次頁に続く）

選肢の確保を求める意見が多いが、前期計画において学級減や改編で対応して行く場合には各校の小規模校化は避けられなくなり、それについての意見を伺いたい。

・ また、胆江ブロックには普通高校が３校存在し、通学の面では統合可能であることも見込まれるので、何らかの形での統合も視野にいれながら検討していく必要があると考えている。

・ 総合学科は生徒が減少していく中での再編という部分も検討しなければならない。

・ 後期では更に長期的な生徒減少があるので、統合等も視野に入れた対応も必要になるため、それに向けてどう対応したらいいか意見をお願いしたい。

【金ケ崎町　参加者】

・ 平成 32 年度まで４学級減るということであるが、その場合、統合や再編、学級減があると思うが、どういう学科が減るのか。現在の学科が統合になれば、普通科、専門学科が減るということになるのか、それとも学級の人数が減るのか。今現在の生徒の進路が狭まることになるのではないか。

【県教委】

・ ４学級を減らす場合、学級数が減る場合もあるが、専門学科の場合は小学科が減ることも想定される。

・ 進路が狭められるのではないかとのことであるが、胆江ブロックでの公立、私立を合わせた高校の定員は 1,180 人であり、平成 27 年卒業者 1,314 人に対して当ブロック公立私立高校への入学者は 1,086 人である。平成 32 年度の卒業生は 1,206 人に減少するので学級減は考えていかなければならない。

【県教委】

・ 資料№.３にあるように、学級定員を減らすことだけで調整をすることは現実では難しいと考えている。何らかの学級減としての調整が必要になると考えており、その場合でも、生徒の選択肢をできる限り残して欲しいという意見があるので、専門高校で学級減を行う場合は学科改編を同時に行い、これまでの専門を学べる体制をできる限り維持したいと考えている。工業高校では電気電子科という学科があるが、生徒数が多かった時に電気科と電子科に分かれていたものを、学級減する場合にできるだけ両学科の要素を取り入れて再編した例であり、専門高校で学級減をする場合であってもできるだけ工夫していきたい。

【矢巾町　参加者】

・ 近県で１学級 40 名以下を実施している県があるのでそれについての考えを伺いたい。

・ 校舎制は山形県でも行っている。遠方の例ではなく近県の例の現状や課題について教えて欲しい。

【県教委】

・ 近県で 40 人以下学級を実施しているところもあるが、35 人学級を導入している場合でも県での追加負担が出来ないために、教員数の減で対応しているところもある。そのようなことを考えると、国からの財政措置を同程度に受けた上で、きめ細やかな指導を行うというような対応が望ましいと考えている。

・ 山形県の校舎制の事例は本校、分校という形での例であり、北海道のキャンパス制も同様である。校舎制については、本校、分校という形ではなく対等の形で考えているので山口県の例を挙げている。

【県教委】

・ 少人数学級については、現在、復興加配として国からの加配で、高校には 34 人教員が加配されて

（次頁に続く）

いる。しかし、財務省から小中学校教員を９年間で 37,000 人削減ということが出される等、高校も含め加配等も減らそうという動きが出ている。復興加配 34 人が無くなった場合、県として負担する場合もかなりの金額が必要となる。今 35 人学級を導入しても、国の方針が変わって加配が無くなった場合、35 人を 40 人に戻すということは現実的には難しいため、当面は 40 人のままで考えていきたい。万が一、導入しても特例的に一部というような導入しかできないと考えている。

【奥州市　参加者】

・ 著しく通学が困難な場合について、あくまでも距離や時間を考えていると思うが、経済的な面も考える必要がある。通学可能でも経済的な負担が生じる場合もあるので、統廃合を考える場合には、ある一カ所に集中するのではなく、どこに住んでいても自力で通学できるところに高校があるのが理想だと思う。

・ 前沢地区には小、中、高、特別支援各１校ずつある。今年、堤防が決壊した鬼怒川の例があったが、前沢でも北上川が平成 14 年に決壊するかもしれない危機があった。万が一、北上川の水位が超えた場合、この地区のハザードマップによると前沢中学校は２ｍ以上、前沢小学校が１ｍの水位になり、特別支援学校が何とか免れる状況である。何も無いのは前沢高校だけである。もしそのような場合、住民避難を考えると、学校の果たす役割は生徒をしっかり教育することに加え、地域の人達を守るというような大きな役割もある。廃校になったところに逃げればいいという考えもあるが、やはり人がいないところには避難しないと思うので、地域の防災拠点としての考え方も考慮してほしい。

【県教委】

・ 現在、統合に伴い公共交通機関による通学が困難な地域で通学バスを運行している場合、通学バスを運行している団体に補助をしている。新たな計画の中でも、統合により公共交通機関による通学が困難な地域から通学しなければならない生徒に対し、経過措置ということで何らかの形で通学に関する支援策も検討しているところ。具体的には通学の状況がそれぞれ異なることから、地域の状況も踏まえ、現在他県で行われている奨学金貸与等の手法等も含めながら、本県として望ましい交通手段の確保という部分を考えていきたい。

・ 経済的な事情について、統合を伴わない通学費の経済的支援については義務教育ではないため、公平性の観点から県全体を通じた仕組みが難しく、就学に対する支援や奨学金の制度があるので、既存の制度での対応をお願いせざるを得ない。

・ 地域の拠点的役割はあるが、県教委としては生徒の学ぶ環境としてより良い環境の確保、生徒の進路実現を考えていかなければならない。地域を守る部分もあるかもしれないが、生徒の学ぶ環境を優先しながら考えていかなければならない。

【奥州市　参加者】

・ 震災前の高校再編では高校の統廃合という言葉が使われていたと思うが、震災後の再編の検討の中では、廃校という言葉については資料の中から消えているように思う。小規模校の存続の声が各地で大きく、存続している学校のほとんどが小規模、中規模校になり、大規模校が数えるくらいしかない中で、学級減、学科の再編があることは仕方がないと思うが、学校の存続を前向きに考えているのか。

・ 前沢高校が今後も存続するということになれば、クラブに加入する生徒も増加すると聞いている。廃校という言葉が無くなったことで存続と捉えてよいのか。

（次頁に続く）

【奥州市　参加者】

・ 資料を見ると、どこの高校を統合するという内容は一切無いが、つい最近、水沢の中学校の先生から「前沢高校が無くなるんでしょ」と言われた。そのようなことはあり得ないことである。そのようなことから入学希望者が減る。前沢区内でも同様な話があり、どこから出た噂かは分からないが、是非そのような誤解を招くことがないよう進めてほしい。

【県教委】

・ 統廃合については、生徒減少から学校運営が厳しいということで福岡高校浄法寺校は募集停止し、最後の卒業生が卒業するため来年度廃校の取扱いになるところ。

・ ブロックとして４学級程度の学級減への対応、そして普通高校が３校存在していること、通学可能と見込まれることを考えると、統合も視野に入れながら検討していく必要があると考えている。現在は案を示しておらずそのような噂については、そのようなことはないものである。

【県教委】

・ 具体的な案として基準を示したり、学校名を示すことは大事だと思うが県教委としてもギリギリまでどうすべきか頭を痛めているところである。

・ 風評があったとの話であるが、県教委の中でもそのような段階に至っていないので出るはずが無い情報である。もし、そのような情報があれば提供いただきたい。

・ 各地区で学校を残してほしいというのは当然だと思うが、一方では生徒が減ることは十分認識されている。その中で学びの機会や質の保証をどう考えていくのかということについて頭を痛めているところであることを御理解いただきたい。